

平成 28 年度 第 2 回高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会

議事録概要

期 日

平成 28 年 12 月 5 日 (月) 13:30~16:00

場 所

高知市役所たかじょう庁舎 3 階会議室

出席者

委 員

吉村美恵子、西尾敦子、山中弘孝、貞岡美樹、片岡浩司、加藤勉、篠森敬三、中屋圭二

事務局

県立図書館：館長 竹林貞治郎、次長 高橋敦子、専門企画員兼チーフ (利用サービス担当) 山重壮一、チーフ (総務企画担当) 傍士孝、チーフ (支援協力担当) 尾形千晶、チーフ (情報資料担当) 谷岡祥子

市民図書館：館長 貞廣岳士、副館長 高石敏子、新図書館運営準備担当係長 武井一仁、新図書館運営準備担当係長 西内久代、資料管理担当係長 伊藤真樹、図書利用担当係長 弘瀬聖子、主任 坂本亜砂子

その他

県教育委員会新図書館整備課：課長 国則勝英、課長補佐 宮本伸二、チーフ (運営体制整備担当) 岡崎由紀美、主幹 竹崎大輔

市民図書館新図書館建設室：室長 池上哲夫、新図書館建設担当係長 小新貴士

概 要

- 1 市民図書館館長挨拶
- 2 議事録署名人の選出 西尾委員
- 3 議事

(1) 議事 1 「新図書館サービス計画 (案) について」

事務局から説明を行った後、次のとおり質疑応答を行った。

(委 員)

「サービス指標 100 万人」の根拠は、実現は難しいのではないか。

(事務局)

100 万人は 3 施設含めての入館者数の目標。図書の貸出冊数 110 万冊は、現在の県市貸出冊数の 2 倍。90~130 万冊と考えている。土日は平日の 2 倍の貸出があると考え、平日は 2,500 冊、土日は 5,000 冊を想定した。

(委 員)

サービス指標について、県民・市民の課題解決を目指しているのなら、どれぐらい課題解決できたかという指標も今後は加えてほしい。新図書館サービス検討委員会の委員になってから、商工会議所から司書へいろいろなリクエストを出したところ、予想以上にすばらしいデータを出していただいた。頑張っている司書のためにも、PDCA のサイクルの中で、どういう成果が出たかという観点で司書を評価してほしい。

(委 員)

利用者満足は重要な視点と考える。

(事務局)

図書館を利用された方の評価を把握したい。

(委員)

障害のある人の図書館利用を追及していくと、点字図書館と図書館との差がなくなっていくのではないか。両方に録音図書貸出・対面朗読というサービスもあり、二者の差、違いが分かりにくい。

また、今年から障害者差別解消法により障害者への「合理的配慮」の提供が求められるが、サービス計画の中では手話勉強会の実施時期が3年後になっている。これでよいか。

(事務局)

確かに二者の違いが分かりにくいですが、図書館と点字図書館が同じ建物内にあるという利点を活かしていきたい。どちらに行けばよいのか分からない場合に備えて、ワンストップサービスを提供したいと考えている。手話のできる職員・司書は現在もいるが、まずは、障害者の視点に立てる職員、手話で挨拶ができる職員を育成していきたい。

(委員)

図書の貸出冊数 110 万冊の中に、市町村支援（協力貸出）冊数も含まれるか。

(事務局)

協力貸出は含まない。「市町村立図書館等への支援」については、貸出数の増を図る観点から、別途指標を設定することも考えている。

(委員)

オーテピア高知図書館の開館を機会に、県全体の市町村立図書館は蔵書数・貸出冊数を増やすよう計画して活性化してほしい。オーテピア高知図書館だけが頑張るのでは上手く回らない。

(委員)

利用者の意見・アンケートの頻度はどうか。利用者の「どの本が良かったか」などの意見も知りたい。

(委員)

ブックレビューやお薦め本の紹介は良い考えだと思う。

(事務局)

アンケートなどは定期的に行い、意見を取り入れていきたい。県立図書館では現在も意見箱を設置し、いただいた意見（と図書館の回答）を張り出している。

(委員)

基本方針の「家庭での学習が困難な子どもたちに対して、図書館資料を活用した学習の場を提供します」について、私は、自分から問いを見出して解決するところが人工知能と異なる人間ならではの力と思っており、これからの子どもたちに期待したいことだと考えている。この点で、どういう支援を考えているかお聞きしたい。

次に、サービス提供体制の充実・強化の「広報・企画の充実・強化」で、図書館未利用者へのPR方法について、具体的に教えてほしい。

また、4階の学習室 96 席は、どのような利用を考えているか。

(事務局)

これまで学習参考書などはあまりなかったが、オーテピア高知図書館の学習室では問題集や参考書の活用もできる。高知市の高知チャレンジ塾運営事業ではリサイクル図書を活用したこともあるが、協議によって、辞書等の資料を提供する等、もっと具体的な話が出てくると思う。

(委員)

パスファインダーはペーパーで提供するのか。

(事務局)

ペーパーとWEB上の両方で提供する。

(委員)

学校現場では、個人に応じて必要なものが変わってくるため、対応に苦慮している。パスファインダーの提供に期待している。

(事務局)

図書館未利用者へのPRについて、市の意識調査の結果では「一年以内に図書館を利用した人」の割合は全体の3割弱に留まっている。図書館といえば、一般的には文学が中心とか、憩いの場というイメージかと思うが、「仕事と暮らしに役立つ」という点を前面に押し出していきたい。

現在も各種のシンポジウムやセミナー等に「出前図書館」として出向き、専門的な図書を並べたり、ブックリストを渡したりしている。「図書館は価値あるところ」ということを広げていきたいと考えている。

PRにはいろいろな方法があると思うが、関係機関の機関誌へ図書館サービスについて掲載してもらうなど、関係機関と連携することで広めていきたい。

(委員)

文化、憩いの場、仕事に役立つなど、さまざまな角度からPRをしていかないと、図書館利用者が3割では年間入館者100万人達成は難しいと思う。後の7割にどうPRしていくか。

(事務局)

ホールの利用についても広げていきたいと考えている。図書館・科学館の事業と調整しながら、ぜひ広く活用していただきたい。4階ホールを利用した後に下の図書館へ来ていただけるような形にしたいと考えている。

(委員)

学校現場は、専任の司書教諭が本当に少なく、図書の時間は本を借り替えるだけになっているのが現状。ホールで、子どもたちが司書から学ぶ「図書を活用した学習」をやっていただくなど、学校だけではまかなえないような事業を期待している。

(委員)

高知市民図書館は分館・分室への支援、県立図書館は市町村立図書館等との連携が重要。

県内市町村立図書館等へ「新しいサービスの成果」を広げる枠組みをあらかじめつくっておいてほしい。

オーテピア高知図書館が開館すれば、地元の市町村立図書館等の充実に対する機運も高まる。機運が盛り上がった機会に、図書館サービスが全県で展開されるようになればと思う。

(事務局)

「市町村支援」の「人的支援」にあるが、「課題解決支援サービス」「行政支援サービス」について、県内市町村立図書館等と一緒に取り組みたいと考えている。各市町村でも展開していけるようなサービスを提供していく。

例えば、企画展示について、今年度は9月のがん制圧月間に、県立図書館・市民図書館で初めて合同で企画展示を行った。その際、県内市町村立図書館等にも広く声をかけ、16館で企画展示がされた。このようなノウハウを県下へ広げていきたいと考えている。

(2)「説明会及びパブリックコメントでいただいた意見等を踏まえたサービス計画への反映について」

事務局から説明を行った後、次のとおり質疑応答を行った。

(委員)

図書館は単なる本の貸し借りだけでなく、営業力が必要であり、求められていると感じる。「関係機関との連携」は、具体的にはどういう連携ができるのか。

(事務局)

関係機関と図書館とがサービスのやりとりをするのではなく、県民・市民へサービスを提供するために関係機関と図書館が連携する、という考え方。

利用者から図書館に質問・要望等があったときに、「こういう専門機関がある」と紹介する、さらに踏み込んで「その件は〇〇さんへ連絡しておきます」と話を繋ぐことなどを考えている。逆に、関係機関へ相談があった時に図書館のデータベースで商圈に関する情報

を提供するなどの支援を行うなど、お互いにWINWINの関係でやっていきたい。

「出前図書館」では一定の成果が出ている。ブックリストの提供のほか、ポータル端末を持って行って図書の貸出しを行うなど、一定の基準のもとに展開していきたいと考えている。

(委員)

関係機関はたくさんあるので、その機関のサイトに図書館へのリンクを張ってもらい、図書館に行けば必要な情報があることのPR窓口になってもらってはどうか。

(委員)

商工会議所はビジネス支援機関として活動しているが、相手によって支援の内容が違い、場面によっても違う。

例えば、お客さんから「〇〇について知りたい」「〇〇のデータがほしい」と言われたとしても、それが「本当の課題ではない」こともある。質問そのものに答えても支援にならないこともあるので、それには答えるのではなく、支援機関に繋げてほしい。

課題解決支援は（一義的には）専門の支援機関の役割で、図書館には資料提供をお願いしたい。支援機関と司書が（チームになって）「この企業の課題はこういう内容で、こういう支援が必要」というところを情報共有したうえで、司書に支援機関の行う支援現場に来てもらい、対応していただけるとお客さんにも良い。

図書館未利用者に対してどうPRするかについては、例えばFacebookで何千人に発信できるような影響力がある人に、図書館を活用する場を提供することが効果的。ぜひ、これまでの図書館の枠組みに縛られず、頭を柔らかくして対応していただきたい。

(委員)

図書館は、発達障害のある子どもにとって個人では利用しづらい場所。親は子どもが声を出すなど、周囲への迷惑を気にするので、利用には個室が望ましいと思うが、オーテピア高知図書館には個室が意外と少ない。迷惑をかけるだろうと利用を遠慮する人たちに、どうPRしていくかが大切だと思う。

また、家庭での学習が困難な子どもたちに対しての学習支援は、個人で動くことは難しいので、図書館へ導く現実的なシステムづくりが必要では。

(事務局)

図書館には「親子コーナー」「調べ学習室」などの個室がある。学校等での利用はもちろんだが、個人利用についても実態に応じて柔軟に対応していく。

(委員)

そういう方々は、常に迷惑をかけることを気にしているので、十分な配慮が必要。

(委員)

医療関係者など専門家に対応を尋ねることも必要。ぜひ柔軟に対応してほしい。

(委員)

そういった方への対応や支援について、職員への啓発はもちろんだが、一般利用者に対しても啓発が必要ではないか。皆にとって快適な図書館になるようお願いする。

(委員)

市町村には財政的に余裕がないところもある。公共図書館が市町村に設立されるよう、学校図書館との連携を含めて、機運が盛り上がることを期待している。

(委員)

計画に寄せられた意見をみると、市町村に対する要望が多いという印象を受ける。市町村によって予算の優先順位もあり、温度差もあると思う。

(委員)

中心商店街の活性化について、商店街が賑わうと活力を感じる。その中心地にオーテピアがあることは希望かなと思う。学力調査を見ると、小学生は本を読むが、年齢が上がるに連れてどんどん読まなくなる。そういう点で、商店街に来た人が図書館に来る流れがあればいいと思う。また、学生をボランティアとして活用するなどして、学生が、自分たちが学んだことが社会に生かされることを知ると力になるので、そういう意味でも期待している。

(委員)

インターンシップなども積極的に受け入れてほしいと思う。

今後は、図書館の予算が少ない、職員が足りないときに、PDCAサイクルをどう回していくか。必要十分な予算・職員があった上でサービスがどう浸透していくのか、といった視点で図書館協議会で検証していく必要がある。PDCAを上手く回していくには、アクションに必要な予算・人員をどれだけ付けられるかというのも大きく関わってくる。

(事務局)

インターンシップ等も活用していきたい。状況を見ながらやっていく。

(委員)

よくできたサービス計画だが、新規の項目がたくさんあるので、それに見合った職員・予算が必要だと思う。

(3) 「縣市図書館システム統合後の推移について」事務局から説明

(4) 報告事項について、事務局から説明

午後4時 協議終了

以上の議事録の内容に相違ありません。

平成 29 年 7 月 21 日

議事録署名人 西尾敦子 